J

A-S300

プリメインアンプ

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
(注意記号)	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
(禁止記号)	「～しないでください」という[禁止」を示します。
(強制記号)	[必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **異常に高温になる。**
- **内部に水や異物が混入した。**
- **煙が出る。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には:

- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。

接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示（プラス＋とマイナス－）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯・保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

電源を入れる前や、再生を始める前には、アンプの音量（ボリューム）を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

■ 乾電池に関するご注意

- リモコンの操作可能範囲が極端に短くなってきたら、すべての乾電池を新しいものに交換してください。
- リモコンを長期間ご使用にならないときは、乾電池を取り外してください。
- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池には、形状や色が同じものでも種類が異なるもの（アルカリとマンガンなど）があります。表示をよく読んで、種類の異なる乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して廃棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 乾電池を一般のゴミといっしょに捨てないでください。地域のきまりに従って正しく処置してください。

■ リモコンの取り扱いについて

- リモコンに水などの液体をこぼさないでください。
- リモコンを落とさないでください。
- リモコンを下記のような場所に放置したり保管したりしないでください。
  - 浴室などの湿気の多い場所
  - ヒーターやストーブの近くなどの高温になる場所
  - 温度が極端に低い場所
  - 埃の多い場所
- 本機のリモコン受光部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっていると、本機をリモコンで操作できないことがあります。このような場合は、照明の向きを変えるか、本機を置く場所を変えてください。

目次

はじめに

接続

操作

付録

■ はじめに

- ヒントは知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- 機能によっては、本体ボタンとリモコンボタンの両方で操作することができます。本体ボタンとリモコンボタンの名前が違う場合は、リモコンボタンの名前が括弧内に記載されています。
- 本書は製品の生産に先がけて印刷されたものです。製品改良などの理由で一部の仕様が本書の記述と異なる場合がございますのでご了承ください。

本機の特長

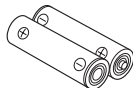
- ◆ 全ての入力ソースをストレートに再生するPURE DIRECT 機能（☞9 ページ）
- ◆ サブウーファー出力端子装備（☞5 ページ）
- ◆ POWER MANAGEMENT 機能による自動節電（☞7 ページ）
- ◆ iPhone/iPod の音楽再生（☞10 ページ）（別売のヤマハ製品が必要です）
- ◆ 付属のリモコンによるヤマハ製チューナー /CD プレーヤー、iPhone/iPod の操作（☞3 ページ）

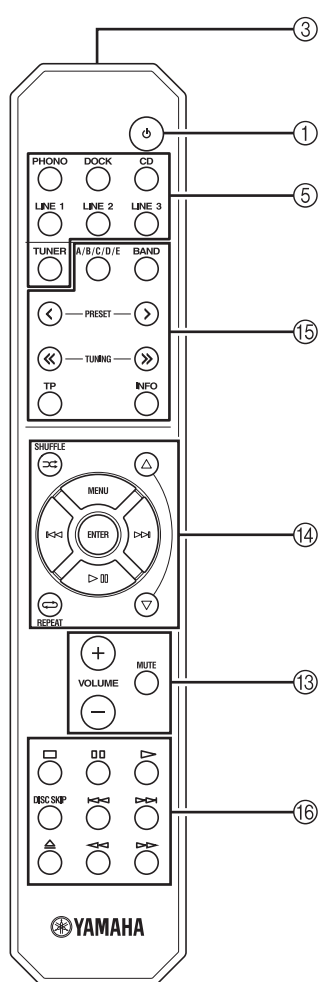
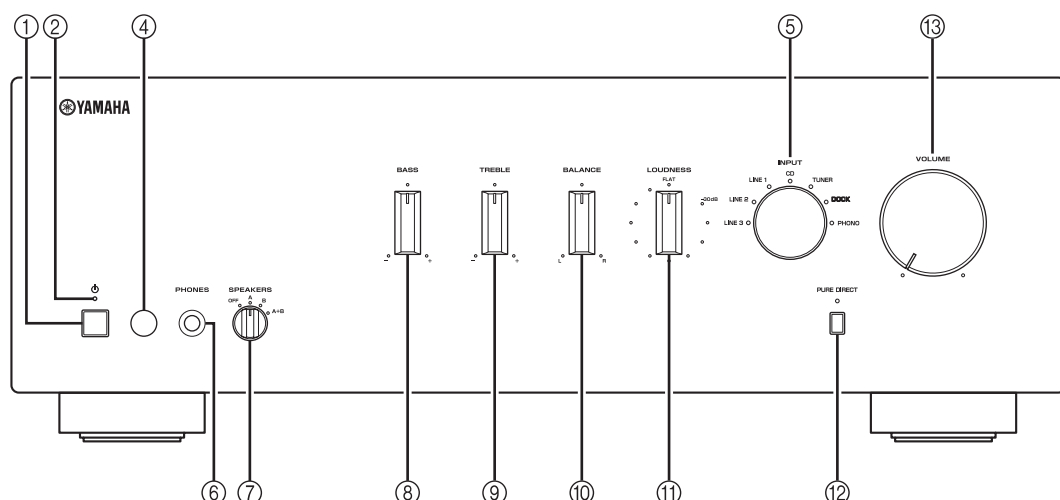
付属品

ご使用の前に、付属品を確認してください。

リモコン

単 3 乾電池（2 本）

はじめに 接続 操作 付録

各部の名称とはたらき

前面（フロントパネル）とリモコン

① ⏻ (POWER)

フロントパネル：⏻ スイッチ

本機の主電源の ON（オン）/OFF（オフ）を切り替えます。

リモコン：⏻ ボタン

本機の主電源が ON の場合に、本機の電源の ON/スタンバイを切り替えます。

ご注意

本機の主電源が OFF やスタンバイでも、少量の電力を消費しています。

② POWER オンインジケーター

下記のように点灯します。

明るい：　電源 ON
暗い：　　スタンバイ
消灯：　　電源 OFF

iPhone/iPod を充電すると、本機の電源がスタンバイでも ON のときと同様に明るく点灯します。

③ リモコン送信部

本機を操作するリモコン信号を送信します。

④ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。

⑤ INPUT(入力) セレクター / インジケーター

再生する入力ソースを選択します。選択した入力ソースのインジケーターが点灯します。

入力ソース名はリアパネルの端子名に対応しています。

⑥ PHONES（フォンズ）端子
ヘッドホンを接続します。スピーカーからの音声出力を止めるには、SPEAKERS セレクターを OFF にしてください。

⑦ SPEAKERS（スピーカーズ）セレクター
音声を出力するスピーカーを選択します。SPEAKERS A（または B）端子に接続されたスピーカーセットから音を出力したいときは、A（または B）にしてください。A、B 両方から音を出力したいときには、A + B にしてください。

⑧ BASS（バス）(低音) 調節つまみ
低音域の周波数特性を調節します（☞9 ページ）。

⑨ TREBLE（トレブル）(高音) 調節つまみ
高音域の周波数特性を調節します（☞9 ページ）。

⑩ BALANCE（バランス）調節つまみ
左右の音のバランスを補正します。右（左）にまわすと音像が右（左）に移動します（☞9 ページ）。

⑪ LOUDNESS（ラウドネス）調節つまみ
音量によらず、すべての音域を自然に再生できるように調節します（☞9 ページ）。

⑫ PURE（ピュア） DIRECT（ダイレクト）スイッチ / インジケーター
すべての入力ソースにおいて、ストレートで高品位な音楽再生が楽しめます。PURE DIRECT 機能が ON のとき、インジケーターが点灯します
(☞9 ページ)。

⑬ VOLUME（ボリューム）コントロール
VOLUME（ボリューム） + / −
音量を調節します。REC 端子からの出力レベルには影響しません。

MUTE（ミュート）ボタン（リモコンのみ）
音量が現在のレベルから約 20dB 低下します。

- MUTE 時は INPUT セレクターで選択した INPUT インジケーターが点滅します。
- フロントパネルの VOLUME コントロールを回すかリモコンの VOLUME ＋ / −ボタンを押すと、MUTE は解除されます。

⑭ iPhone/iPod 操作ボタン
別売のヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックや iPod 用ワイヤレスシステムをご使用の場合に、iPhone/iPod を操作します（☞11 ページ）。

⑮ ヤマハ製チューナー操作ボタン
ヤマハ製のチューナーを操作します。

ご注意

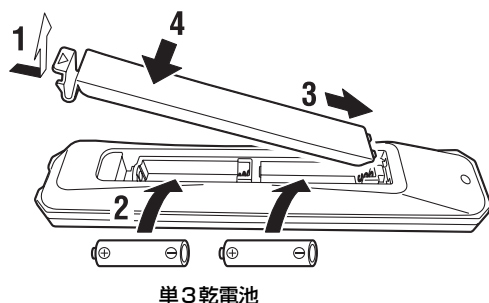
ヤマハ製のチューナーでも、一部操作できない機器や機能があります。チューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

⑯ ヤマハ製 CD プレーヤー操作ボタン
ヤマハ製の CD プレーヤーを操作します。

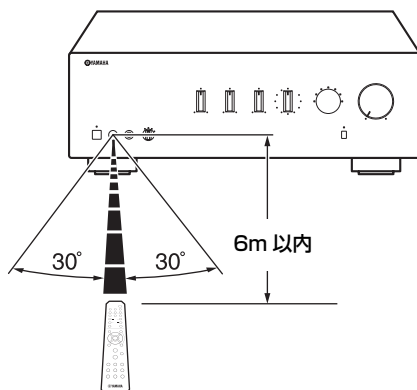
ご注意

ヤマハ製の CD プレーヤーでも、一部操作できない機器や機能があります。CD プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

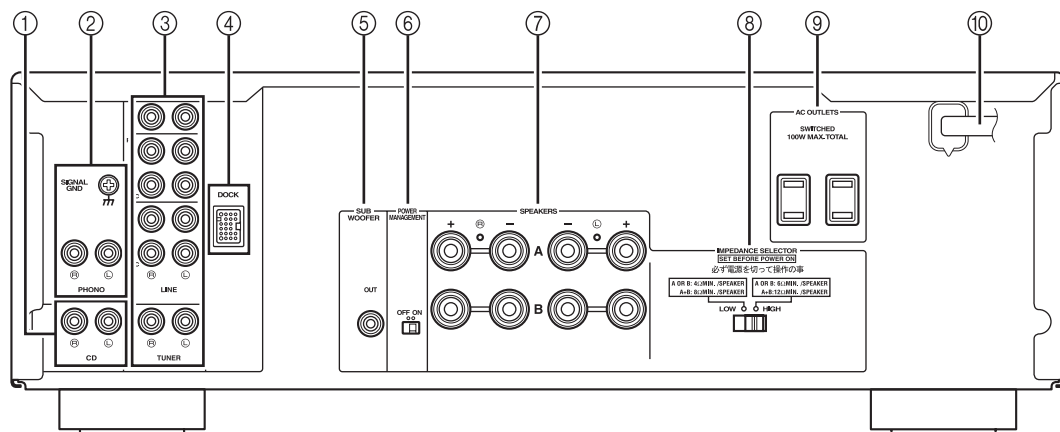
リモコンについて

■ 乾電池を入れる

ご注意

極性（＋ / −）が合っているかよくご確認ください。
乾電池の向きを電池ケース内の表示に合わせてください。

■ リモコンの使いかた
リモコンは直進性の強い赤外線を使用しています。操作するときは本機のフロントパネルのリモコン受光部にまっすぐに向けてください。

ご注意

本機とリモコンの間に障害物を置かないでください。

背面（リアパネル）

① CD 入力端子

CD プレーヤーを接続します（☞5 ページ）。

② PHONO（フォノ）端子 /SIGNAL（シグナル）GND 端子

MM カートリッジを備えたレコードプレーヤーを接続します（☞5 ページ）。

SIGNAL GND 端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。

③ 音声入出力端子

チューナーなどの外部機器を接続します（☞5 ページ）。

④ DOCK（ドック）端子

別売のヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックや iPod 用ワイヤレスシステムを接続します（☞10 ページ）。

⑤ SUBWOOFER（サブウーファー）OUT（アウト）端子

サブウーファーを接続します（☞5 ページ）。

⑥ POWER（パワー）MANAGEMENT（マネージメント）スイッチ

POWER MANAGEMENT 機能の ON/OFF を切り替えます（☞7 ページ）。

⑦ SPEAKERS（スピーカー）A/B 端子

1 組または 2 組のスピーカーを接続します（☞5 ページ）。

⑧ IMPEDANCE（インピーダンス）SELECTOR（セレクター）スイッチ

接続するスピーカーシステムのインピーダンスに応じて切り替えます。右の表を参照してください。

⑨ AC OUTLETS（アウトレット）

外部機器の電源プラグを接続します（☞7 ページ）。

⑩ 電源コード

コンセントに接続します（☞7 ページ）。

■ IMPEDANCE（インピーダンス）SELECTOR（セレクター）スイッチ

重要

本機の電源が ON のときには、IMPEDANCE SELECTOR スイッチを切り替えないでください。本機が故障する原因になります。
フロントパネルの ⏻ スイッチを押しても本機の電源が入らない場合、IMPEDANCE SELECTOR スイッチが確実に選択されていないことがあります。この場合、電源プラグを抜き、スイッチが止まる位置までスライドさせてください。
お手持ちのスピーカーシステムのインピーダンスに応じてスイッチの位置（LOW または HIGH）を選択してください。

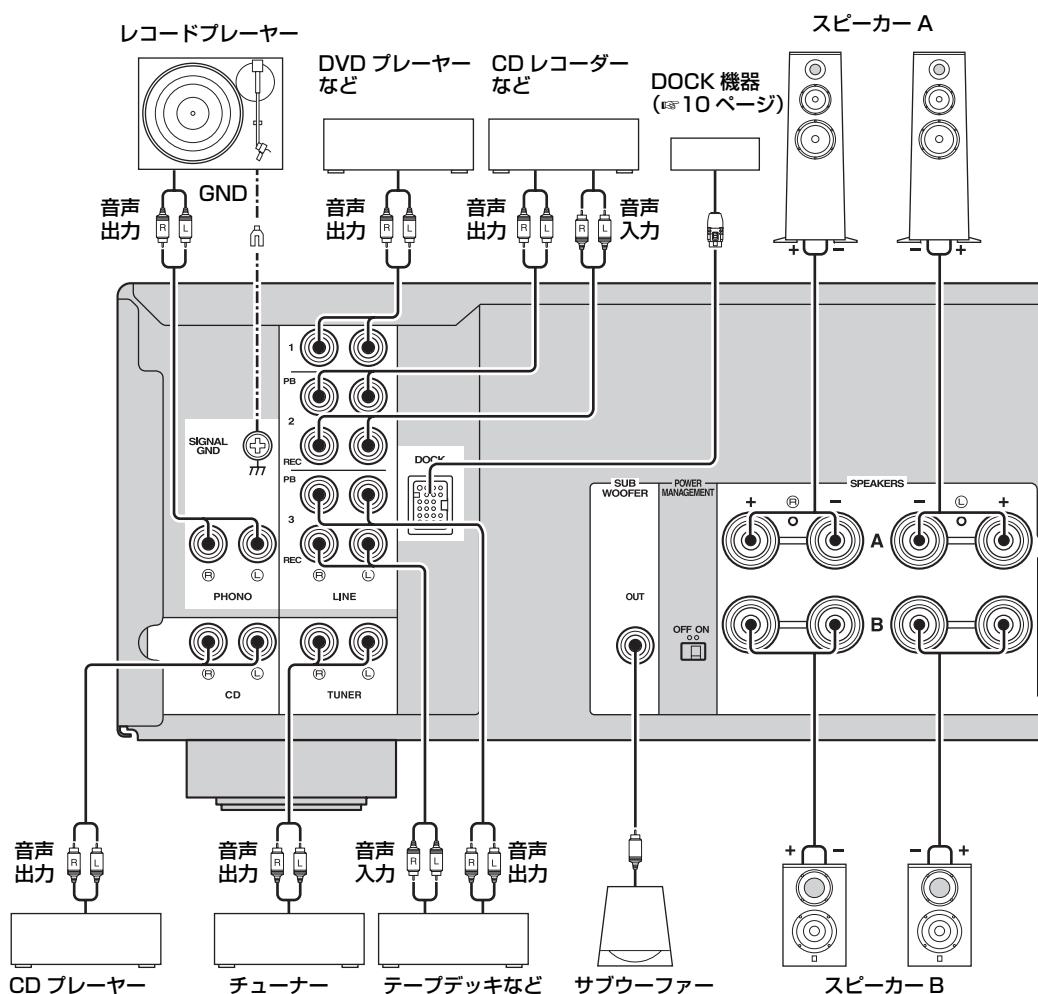
スイッチの位置	インピーダンス値
HIGH	スピーカーが 1 組（A または B）の場合は、インピーダンスが 6 Ω 以上のスピーカーをご使用ください。
	2 組（A と B）のスピーカーを同時に使用する場合は、それぞれインピーダンスが 12 Ω 以上のスピーカーをご使用ください。
	バイワイヤリング接続をする場合は、インピーダンスが 6 Ω 以上のスピーカーをご使用ください（☞6 ページ）。
LOW	スピーカーが 1 組（A または B）の場合は、インピーダンスが 4 Ω 以上のスピーカーをご使用ください。
	2 組（A と B）のスピーカーを同時に使用する場合は、それぞれインピーダンスが 8 Ω 以上のスピーカーをご使用ください。
	バイワイヤリング接続をする場合は、インピーダンスが 4 Ω 以上のスピーカーをご使用ください（☞6 ページ）。

接続のしかた

外部機器とスピーカーを接続する

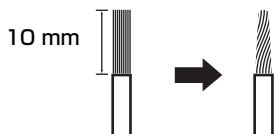
重要

- すべての接続が終わるまで、本機や本機に接続した機器の電源コードを家庭用コンセントに差し込まないでください。
- 左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、＋（赤）、－（黒）をよく確認して、正しく接続してください。接続が間違っていると、スピーカーから音が出ない場合があります。また、極性が間違っていると、音が不自然に聞こえたり低音が聞こえないことがあります。その他の機器に付属している取扱説明書も参照してください。
- スピーカーと DOCK 機器の接続を除き、他の機器との接続には RCA タイプのピンケーブルを使用してください。

接続

- 本機には MM カートリッジを備えたレコードプレーヤーを接続できます。
- レコードプレーヤーのアースを SIGNAL GND 端子に接続すると、雑音を低減することができます。ただし、レコードプレーヤーによっては、SIGNAL GND 端子に接続しないほうが雑音が少ない場合があります。

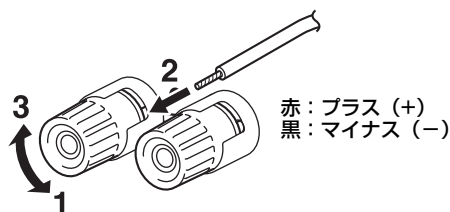
重要

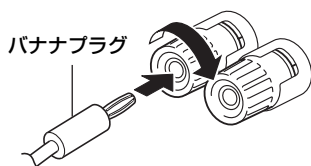
- スピーカーを接続する前に、必ず IMPEDANCE SELECTOR スイッチを適切に設定してください（☞4 ページ）。
- 芯線がむき出しになったスピーカーケーブル同士を接触させたり、本機の金属部分に触れないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因になります。
- スピーカーの接続が終わるまで本機の電源を入れないでください。

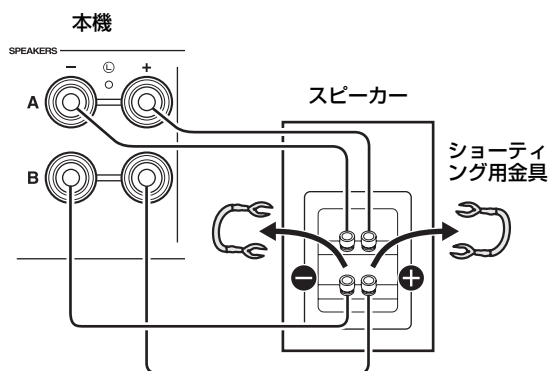
1 **スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10 mm くらいはがし、芯線をしっかりよじる。**

2 **スピーカーケーブルを接続する。**

① スピーカー端子を左に回して、ゆるめる。

② スピーカー端子の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。

③ スピーカー端子を右に回して、しめる。

■ バナナプラグを使用する場合

端子を強くしめてから、バナナプラグを端子に差し込みます。

■ バイワイヤリング接続

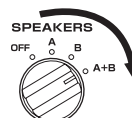
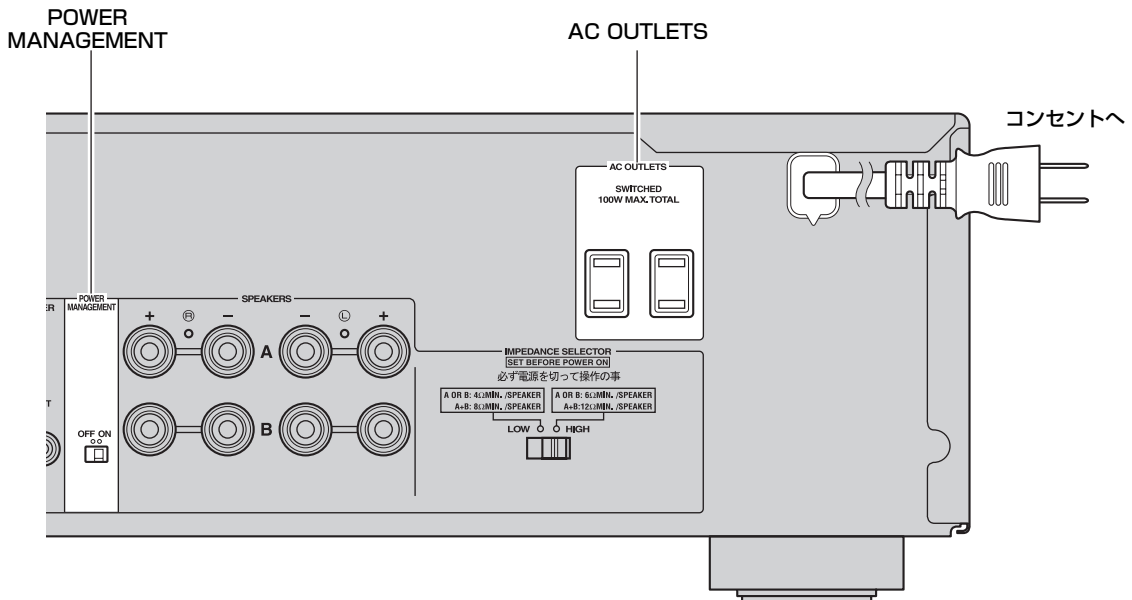
バイワイヤリング接続により、ウーファーを中高音部から分離させることができます。バイワイヤリング接続対応スピーカーには４個の接続端子があり、これらの２組の端子によってスピーカーを独立した２部分に分割できます。この接続では、中高音ドライバーを１組の端子に、低音ドライバーをもう１組の端子に接続します。

もう一方のスピーカーも同様に接続します。

重要

バイワイヤリング接続をする場合は、スピーカーのインピーダンスに応じて、IMPEDANCE SELECTOR スイッチを LOW または HIGH に設定してください。
6 Ω 以上：HIGH
4 Ω 以上：LOW
(☞4 ページ“IMPEDANCE SELECTOR スイッチ”参照)

ご注意

バイワイヤリング接続をするときは、必ずスピーカー側の端子に装着されたショーティング用金具やケーブルを取り外してください。

バイワイヤリング接続を利用するには、SPEAKERS セレクターを A+B にします。

電源コードを接続する

■ POWER MANAGEMENT スイッチ

8 時間本機を操作しない状態が続いたとき、自動的に本機の電源をスタンバイにする機能の ON/OFF を切り替えます。

■ AC OUTLETS

外部機器の電源プラグを接続します。
AC OUTLETS は本機の電源の ON/OFF と連動しています。本機の電源が ON のとき、AC OUTLETS に接続されている機器に電力を供給します。
本機の電源が OFF やスタンバイのときは、電力を供給しません。
2 つの AC OUTLETS に合計消費電力 100W までのオーディオ機器を接続できます。

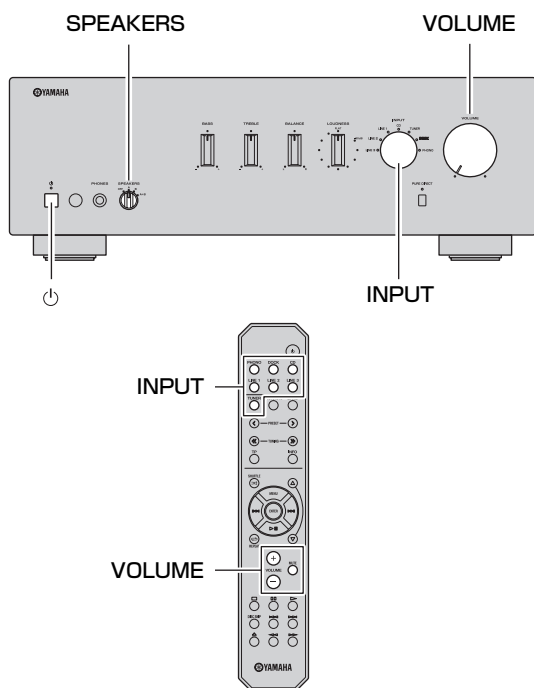
ご注意

サブウーファーなど、アンプ内蔵の機器は接続しないでください。

■ 電源コードを接続する

すべての機器の接続が終わったら、家庭用コンセント（AC100V、50/60Hz）に電源プラグを接続します。

再生・録音のしかた

再生する

1 突然大きな音で再生しないようにフロントパネルの VOLUME コントロールを、反時計回りにいっぱいまで回す。

2 フロントパネルの ⏻ スイッチを押して ON にする。

3 フロントパネルの INPUT セレクターを回して（またはリモコンの INPUT セレクターボタンを押して）、入力ソースを選択する。

選択した入力のインジケーターが点灯します。

PHONO: レコードプレーヤー
DOCK: DOCK 機器
TUNER: チューナー（FM/AM）
CD: CD プレーヤー
LINE 1: DVD プレーヤーなど
LINE 2: CD レコーダーなど
LINE 3: テープデッキなど

4 フロントパネルの SPEAKERS セレクターを回して、スピーカーを選択する。

- バイワイヤリング接続をする場合や、2 組 (A と B) のスピーカーを同時に使用する場合は、SPEAKERS セレクターを A+B にしてください。
- ヘッドホンをお使いの場合にスピーカーからの音声出力を止めるには、SPEAKERS セレクターを OFF にしてください。

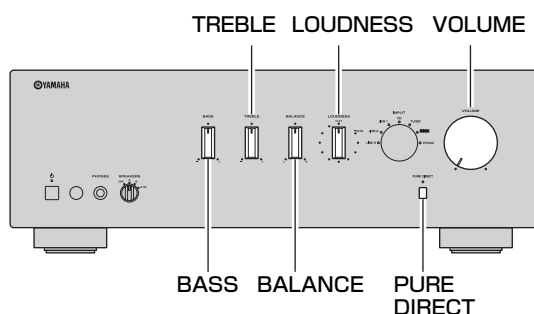
5 入力ソース機器を操作して再生を開始する。

6 フロントパネルの VOLUME コントロールを回して（またはリモコンの VOLUME ＋ / －ボタンを押して）、音量を調節する。

必要に応じて、フロントパネルの BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS または PURE DIRECT 機能でお好みの音に調節することができます。

7 使用後は、フロントパネルの ⏻ スイッチを押して OFF にする。

リモコンの ⏻ ボタンを押すと、本機の電源をスタンバイに切り替えることができます。もう一度押すと ON に戻ります。

音質を調節する

■ すべての入力信号を高品位に再生する（PURE DIRECT）

PURE DIRECT スイッチを ON にすると、音声入力信号が BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS の各調節機能をバイパスするため、すべての入力ソースにおいて、ストレートで高品位な音楽再生を楽しむことができます。

ご注意

PURE DIRECT 機能が ON のときは BASS、TREBLE、BALANCE や LOUDNESS の各調節機能は無効になります。

■ 低音域と高音域を調節する（BASS/TREBLE）

低域と高域の周波数特性を調節します。
センターポジションにすると、特性がフラットになります。

BASS

低音が不足 : 時計回りにまわす
低音が過剰 : 反時計回りにまわす
調整範囲 : － 10dB ～ +10dB（20Hz）

TREBLE

高音が不足 : 時計回りにまわす
高音が過剰 : 反時計回りにまわす
調整範囲 : － 10dB ～ +10dB（20 k Hz）

■ バランスの調節（BALANCE）

左右スピーカーのバランスを調節し、スピーカーの位置やリスニングルームの状態による左右スピーカーの音のアンバランスを補正します。

■ 低音と高音のレベルを補正する（LOUDNESS）

音量が小さくなるほど低音と高音が聞こえにくくなる人間の聴感特性を補正し、音量によらず、すべての音域を自然に再生できるように調節します。

重要

LOUDNESS が調節されているときに、PURE DIRECT スイッチを ON にした場合、入力信号は LOUDNESS 調節機能をバイパスするため、音量が急に大きくなります。耳やスピーカーをダメージから守るため、**PURE DIRECT スイッチを押す前に** LOUDNESS の調節値を必ず確認し、FLAT 以外に調節されている場合は音量を下げるなどの処置をしてください。

1 **LOUDNESS調節つまみをFLATの位置にする。**

2 **フロントパネルの VOLUME コントロールを回して（またはリモコンの VOLUME ＋ / －ボタンを押して）、普段音楽をお聴きになるときの最大の音量まで上げる。**

3 **適度な音量になるまで、LOUDNESS 調節つまみを回す。**

LOUDNESS を調節したら、VOLUME コントロールを操作してお好みの音量でお楽しみください。LOUDNESS が過剰、または不足している時は LOUDNESS 調節つまみで再度調節してください。

録音する

ご注意

- 本機では INPUT セレクターで選択しているソースを録音機器へ出力します。ただし、INPUT セレクターで LINE 2（もしくは LINE 3）を選択した場合は、LINE 2 REC（もしくは LINE 3 REC）へは出力されません。
- 録音するには、本機の電源を ON にする必要があります。
- VOLUME、BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS 調節や、PURE DIRECT 機能の設定は録音には影響しません。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

録音するソースを再生し、録音機器を操作して録音を開始する（☞5 ページ）。

操作

再生のしかた（iPhone/iPod）

別売のヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックや iPod 用ワイヤレスシステムを本機の DOCK 端子に接続することで、iPhone/iPod からの音楽再生を楽しむことができます。

	iPod 用ユニバーサルドック	iPod 用ワイヤレスシステム
対応機種（2010 年 7 月現在）	· YDS-12 · YDS-11 · YDS-10	YID-W10
操作方法	· リモコン · ドックに接続された iPhone/iPod	· YID-W10 トランスミッターに接続された iPhone/iPod · リモコン
対応 iPhone/iPod（2010 年 7 月現在）	· iPod touch · iPod（第 4 世代 / 第 5 世代 /classic） · iPod nano · iPod mini · iPhone · iPhone 3G/3GS	· iPod touch · iPod（第 5 世代 /classic） · iPod nano · iPhone · iPhone 3G/3GS
備考	· iPhone/iPod の充電も可能です。 · YDS-10/YDS-11 では iPhone は動作保証しません。	iPhone/iPod の充電も可能です。

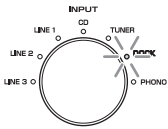
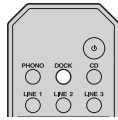
重要

事故防止のため、本機の電源コードを抜いてから、iPod 用ユニバーサルドックや iPod 用ワイヤレスシステムを DOCK 端子に接続してください。

ご注意

YID-W10 に iPhone を接続している場合、iPhone の着信音が鳴ると、本機の電源が自動的にスタンバイから ON になり着信音が出力されます。本機の電源を ON にしたくない場合は、iPhone をサイレントモードに切り替えてください。

iPod 用ユニバーサルドックを使用する

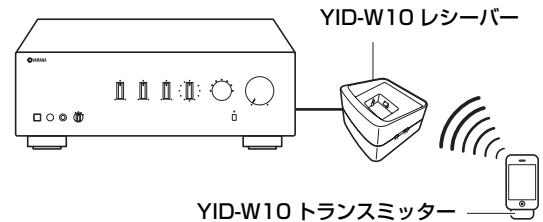
フロントパネルの INPUT セレクターを回して（またはリモコンの INPUT セレクターボタンを押して）、DOCK を選択します。

または

リモコンを使用して以下の操作ができます。

リモコン	操作
MENU	メニュー画面を表示します。
ENTER	・ 選択している項目を決定し、次の画面に進みます。 ・ 曲を選択している場合は、選択している曲を再生します。
△	上にスクロールします。
▽	下にスクロールします。
▷II	・ 曲を再生します。 ・ 再生中に押すと一時停止します。
▷▷I	・ 再生中または一時停止中に押すと、次の曲に移動します。 ・ 押し続けると、再生中の曲を早送りします。
I◁◁	・ 再生中または一時停止中に押すと、曲の先頭に戻ります。 ・ 繰り返し押すと、1 曲ずつ前の曲に移動します。 ・ 押し続けると、再生中の曲を早戻しします。
⤨	シャッフル機能を、オフ→曲→アルバム→オフの順に切り替えます。
⟲	リピート機能を、オフ→ 1 曲→すべて→オフの順に切り替えます。

ご注意

ご使用の iPhone/iPod のモデルやソフトウェアバージョンによっては、シャッフル機能およびリピート機能の一部を利用できない場合があります。

本機の電源が ON またはスタンバイの場合に、iPod 用ユニバーサルドックに iPhone/iPod を接続しているときは、iPhone/iPod が自動的に充電されます。充電中は POWER オンインジケーターが明るく点灯します。

iPod 用ワイヤレスシステムを使用する

■ ワイヤレス接続を確立する

iPhone/iPod をトランスミッターに接続して再生を開始してから、レシーバーとのワイヤレス接続が確立して音声が出力されるまでには、約 5 秒かかります。接続状態は各ステータスインジケーターから確認できます。

接続状態	トランスミッター	レシーバー
未接続	消灯	消灯
接続確認中	点滅（緑色）	点滅（青色）
接続完了	点灯（緑色）	点灯（青色）

■ iPhone/iPod で本機を操作する

- ワイヤレス通信が可能な距離内で、トランスミッターに接続した iPhone/iPod の再生を開始すると、本機は以下のように動作します。
  - 本機の電源が ON の場合は、自動的に入力ソースが DOCK に切り替わります。
  - 本機の電源がスタンバイの場合は、自動的に電源が ON になり、入力ソースが DOCK に切り替わります。
- iPhone/iPod で音量を調節すると、本機の音量も一定の音量まで連動して変化します。音量をさらに大きくしたい場合は、本機の VOLUME コントロールを直接操作してください。
- 以下の条件になると、トランスミッターとレシーバーとのワイヤレス接続が切断されます。その後、約 30 秒経過すると本機の電源は自動的にスタンバイに切り替わります。
  - iPhone/iPod の再生を停止してから 30 秒～ 2 分間 iPhone/iPod を操作しなかった。
  - iPhone/iPod のスリープタイマーが作動した。
  - iPhone/iPod をトランスミッターから取り外した。
  - iPhone/iPod の電池残量が少なくなり、トランスミッターに電力が供給されなくなった。
  - レシーバーとのワイヤレス通信ができない距離にトランスミッターを移動した。
  - 無線 LAN、コードレス電話、電子レンジなどの電波が影響して、通信に悪影響を及ぼした。

- リモコンを使用してトランスミッターに接続している iPhone/iPod を操作することもできます（左の表を参照）。
- 本機の電源が ON またはスタンバイの場合に、iPhone/iPod を接続しているトランスミッターをレシーバーに接続しているときは、iPhone/iPod が自動的に充電されます。充電中は POWER オンインジケーターが明るく点灯します。
- YID-W10 の取扱説明書もあわせてご覧ください。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを家庭用コンセントから抜いてからお買い上げ店または最寄りのヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

■ 本体

症状	原因	対策	参照ページ
本機の電源が入らず、POWER オンインジケーターも点灯しない。	電源プラグが正しく接続されていない。	電源プラグを家庭用コンセントに正しく接続してください。	7
	フロントパネルの ⏻ スイッチが OFF の時に、リモコンの ⏻ ボタンを押している。	フロントパネルの ⏻ スイッチを ON にしてください。	2
	本機内部の回路に異常がある。	電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ販売店にお問い合わせください。異臭や異音などが本機から発生した場合は、本機の電源を入れずに、電源プラグを抜いてそのままヤマハ修理ご相談センターに修理を依頼してください。	—
本機を使用中に突然電源が OFF になり、POWER オンインジケーターが点滅する。 **フロントパネルの ⏻ スイッチを ON にしても、数秒以内に OFF になり POWER オンインジケーターが点滅する。**	スピーカーケーブルが互いに接触したり、本機リアパネルの金属部分に接触している。	スピーカーケーブルを正しく接続し、本機の電源をもう一度 ON にしてください。すべての INPUT インジケーターが点滅し、音量が自動的に下がります。音量が最小まで下がると、最後に選択されていた INPUT インジケーターが点灯して、本機の起動が完了します。本機が起動したら音量を徐々に上げ、音が正常に出るか確認し、使用してください。	6
	スピーカーが故障している。	正常なスピーカーに交換し、本機の電源をもう一度 ON にしてください。すべての INPUT インジケーターが点滅し、音量が自動的に下がります。音量が最小まで下がると、最後に選択されていた INPUT インジケーターが点灯して、本機の起動が完了します。本機が起動したら音量を徐々に上げ、音が正常に出るか確認し、使用してください。	—
	過大入力をしたため、または音声出力を上げ過ぎたため、保護回路が作動した。	フロントパネルの VOLUME コントロールで音量を下げて、本機の電源をもう一度 ON にしてください。	—
	本機内部の温度が上昇したため、保護回路が作動した。	約 30 分本機内部の温度が下がるのを待ち、フロントパネルの VOLUME コントロールで音量を下げて、もう一度電源を ON にしてください。また、本機の放熱を妨げない場所に設置してください。	—
	インピーダンスの設定が間違っている。	IMPEDANCE SELECTOR スイッチをスピーカーに合わせて正しく設定してください。	4
	IMPEDANCE SELECTOR スイッチが正しい位置にない。	本機の電源を OFF にし、IMPEDANCE SELECTOR スイッチが止まる位置までスライドさせてください。	4
	本機が外部電気ショック（落雷または過度の静電気）を受けた。	家庭用コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
	本機内部の回路に異常がある。	電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ販売店にお問い合わせください。異臭や異音などが本機から発生した場合は、本機の電源を入れずに、電源プラグを抜いてそのままヤマハ修理ご相談センターに修理を依頼してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
音が出ない。	MUTE が有効になっている。	リモコンの MUTE ボタンを押すか、VOLUME コントロールを操作して MUTE を解除してください。	3
	ケーブルが正しく接続されていない。	ステレオピンケーブルおよびスピーカーケーブルを正しく接続してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	5
	入力機器が停止している。	入力機器の電源を入れ、再生を開始してください。	8
	入力が正しく選択されていない。	フロントパネルの INPUT セレクター（またはリモコンの INPUT セレクターボタン）で入力を選択し直してください。	8
	SPEAKERS セレクターが OFF になっている。	SPEAKERS セレクターを A、B または A+B にしてください。	8
音声が突然出なくなった。	保護回路が作動した。	インピーダンスが正しく設定されているか確認してください。	4
		スピーカーケーブルが互いに接触していないか、またはスピーカーケーブルが本機のリアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源をもう一度 ON にしてください。	5
	本機の内部温度が高くなっている。	トップパネルをふさがないように本機を設置してください。	—
	POWER MANAGEMENT 機能が作動した。	他の原因によるものではないことを確認し、本機の電源をもう一度 ON にしてください。	7
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない。	再生機器やスピーカーが正しく接続されていない。	接続を確認してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	5
	BALANCE 調節が正しく設定されていない。	BALANCE 調節を適切に設定してください。	9
低音の再生不良。	スピーカーやアンプの +/ −が逆に接続されている。	+/ −を確認して、正しく接続してください。	6
ハム音が出る。	ステレオピンケーブルが正しく接続されていない。	ステレオピンケーブルを正しく接続してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	5
	レコードプレーヤーのアースが SIGNAL GND 端子に接続されていない。	アースコードを本機の SIGNAL GND 端子に接続してください。	5
レコードの再生音が小さい。	レコードプレーヤーを PHONO 以外の端子に接続している。	PHONO 端子に接続してください。	5
	MC カートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生している。	MM カートリッジを備えたレコードプレーヤーを本機に接続してください。	—
音量を上げることができない、または音が歪んでいる。	本機の LINE 2 REC 端子または LINE 3 REC 端子に接続している機器の電源が入っていない。	接続されている機器の電源を入れてください。	—
本機に接続している CD プレーヤーやテープデッキにヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む。	本機の電源が OFF またはスタンバイになっている。	本機の電源を入れてください。	8
音量が小さい。	MUTE が有効になっている。	リモコンの MUTE ボタンを押すか、VOLUME コントロールを操作して MUTE を解除してください。	3
	LOUDNESS を調節している。	VOLUME コントロールで音量を下げてから、LOUDNESS 調節つまみを FLAT の位置に戻して VOLUME コントロールを再調節してください。	9

症状	原因	対策	参照ページ
BASS、TREBLE、BALANCE、LOUDNESS の調節が効いていない。	PURE DIRECT スイッチが ON になっている。	PURE DIRECT スイッチを OFF にしてください。	9

■ iPod 用ユニバーサルドック /iPod 用ワイヤレスシステム

症状	原因	対策	参照ページ
再生できない。 **iPhone/iPod を操作できない。**	iPod 用ユニバーサルドックまたは iPod 用ワイヤレスシステムと本機が正しく接続されていない。	本機の電源を切り、iPod 用ユニバーサルドックまたは iPod 用ワイヤレスシステムを DOCK 端子に再接続してください。	10
		iPod 用ユニバーサルドックまたは iPod 用ワイヤレスシステムから iPhone/iPod を取り外し、再接続してください。	10
	非対応の iPhone/iPod を接続している。	対応している iPhone/iPod を接続してください。	10
iPod 用ワイヤレスシステム使用時 : **頻繁に音が途切れる。** **雑音が多い。**	YID-W10 レシーバーを本機に近づけて設置しているため、電波が届きにくくなっている。	YID-W10 レシーバーを本機からできるだけ離して設置してください。	10
iPod 用ユニバーサルドック使用時 : **iPhone/iPod を iPod 用ユニバーサルドックに接続しても充電されない。**	本機の電源が入っていない。	本機の電源を ON またはスタンバイにしてください。	2
	iPhone/iPod が iPod 用ユニバーサルドックにしっかりと接続されていない。	iPod 用ユニバーサルドックから iPhone/iPod を取り外し、再接続してください。	10
iPod 用ワイヤレスシステム使用時 : **iPhone/iPod を接続した YID-W10 トランスミッターを YID-W10 レシーバーに接続しても充電されない。**	本機の電源が入っていない。	本機の電源を ON またはスタンバイにしてください。	2
	iPhone/iPod を接続した YID-W10 トランスミッターが YID-W10 レシーバーにしっかりと接続されていない。	iPhone/iPod を接続した YID-W10 トランスミッターを YID-W10 レシーバーから取り外し、再接続してください。	10

■ リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できなかったり、正常に動作しない。	リモコンの操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から 6m 以内、角度 30°以内の範囲で操作してください。	3
	本機のリモコン受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本機の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて新しいものに交換してください。	3

主な仕様

オーディオ部

・定格出力
（8 Ω、20Hz ～ 20kHz、0.019% THD）
.... 60W + 60W
（6 Ω、20Hz ～ 20kHz、0.038% THD）
.... 70W + 70W

・ダイナミックパワー（IHF）（8/6/4/2 Ω）
.... 100/120/140/150W

・パワーバンド
（0.06% THD、30W、8 Ω）
.... 10Hz ～ 50kHz

・ダンピングファクター (SPEAKERS A)
1kHz、8 Ω..................... 240 以上

・実用最大出力（JEITA）（1kHz、10% THD、8/6 Ω）
.... 100/110W

・入力感度 / 入力インピーダンス
PHONO（MM）..................... 3.0mV/47k Ω
CD 他 .... 200mV/47k Ω

・最大許容入力
PHONO（MM）（1kHz、0.003% THD）....... 60mV 以上
CD 他（1kHz、0.5% THD）..................... 2.2V 以上

・出力電圧 / 出力インピーダンス
REC .... 200mV/1.0k Ω 以下

・PHONES 端子出力 / 出力インピーダンス
CD 他（入力 1kHz、200mV、8 Ω）
.... 360mV/470 Ω

・周波数特性
CD 他（20Hz ～ 20kHz）..................... 0 ± 0.5dB
CD 他、PURE DIRECT オン
（10 ～ 100kHz）..................... 0 ± 1.0dB

・RIAA 偏差
PHONO（MM）..................... ± 0.5dB

・全高調波歪率
PHONO（MM)-REC
（20Hz ～ 20kHz、3V）..................... 0.025% 以下
CD 他 - SPEAKERS
（20Hz ～ 20kHz、30W、8 Ω）............ 0.015% 以下

・信号対雑音比（IHF-A ネットワーク）
PHONO（MM）（5mV 入力ショート）............. 88dB 以上
CD 他、PURE DIRECT オン
（200mV 入力ショート）..................... 100dB 以上

・残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）..................... 30μV

・チャンネルセパレーション
CD 他（5.1k Ω 入力ショート、1/10kHz）
.... 65/50dB 以上

・トーンコントロール特性
BASS
可変幅（20Hz）..................... ± 10dB
ターンオーバー周波数..................... 350Hz
TREBLE
可変幅（20kHz）..................... ± 10dB
ターンオーバー周波数..................... 3.5kHz

・コンティニュアスラウドネスコントロール
最大補正率（1kHz）..................... − 30dB

・ゲイントラッキングエラー（0dB ～− 99dB）
.... 0.5dB 以下

総合

・電源電圧 .... AC100V、50/60Hz
・消費電力 150W
・待機電力 .... 0.5W 以下
・YID-W10 待機電力（YID-W10 接続時）............. 1.2W 以下
・iPod 充電時消費電力..................... 25W 以下
・AC OUTLETS..................... 2（合計 100W）
・寸法（幅 × 高さ × 奥行き）....... 435 × 151 × 387mm
・質量..................... 9.0kg

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

iPhone、iPod

iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touch は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

付録

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL （053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ヤマハオーディオ＆ビジュアルサポートページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL （053）460-4830

FAX （053）463-1127

受付：月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● **保証期間**
お買い上げ日から1年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**

技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ･リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を!

愛情点検

こんな症状はありませんか?

- 電源コード･プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常･故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検･修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

Printed in Malaysia WV17490